

九州生乳販連会報

No.

71

August 2020

TOPICS

第21回通常総会を開催	1
平成31年度事業報告	2
生乳品質共励会表彰式	9
平成31年度生乳増産奨励事業実施報告	10
酪農情勢報告	11
令和2年度月別受託生乳検査成績	12
人事異動	12
令和2年度会員別生乳受託販売数量	13
令和2年度販売状況について	13
PAG検査（妊娠確認検査）利用拡大について	14
搾乳時の人為的なミスによる抗生物質混入事故に注意しましょう！	15
酪農教育ファーム認証牧場・ファシリテーター新規募集！	15
酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業 お知らせとご報告について	16
LL牛乳の配布にご協力いただきありがとうございました！	16

第21回通常総会を開催

去る7月28日、福岡市内のホテルにて第21回通常総会を開催しました。

令和2年度の事業計画につきましては、去る3月27日開催の臨時総会において承認を得ていますので、本総会においては下記の4議案が上程され、全て原案どおり承認されました。

第1号議案

平成31年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表、附属明細書及び剰余金処分案の承認について

第2号議案

定款の一部改正(案)について

第3号議案

役員の補欠選任について

第4号議案

役員退職慰労金の支出について(案)

この結果、本会の役員体制は右記のとおりとなりました。

役員名簿

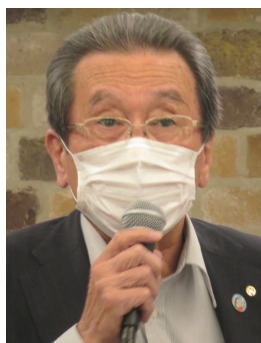
代表理事会長	隈部 洋
代表理事副会長	中村 隆馬
代表理事常務	稗島 喜美男
理事	草場 哲治(新任)
理事	大島 信之
理事	清末 健一
理事	平島 善範(新任)
理事	轟木 孝一(新任)
代表監事	小野 幾郎
監事	江藤 秀樹(新任)
監事	福添 誠

退任役員

理事	尾形 文清
理事	壹岐 定憲
理事	橋口 弘
監事	草場 哲治



隈部会長



清末議長



草場理事



平島理事



轟木理事



江藤監事

平成31年度 事業報告

一般概況(抜粋)

国内農業については、TPP11、日欧EPA、日米貿易協定により農業への影響が年々大きくなっています。また一方では、日本のどこかで毎年のように猛烈な台風の襲来や未曾有の豪雨など甚大な被害をもたらす自然災害が発生し、安定的な農業経営を営むことが難しくなっています。九州においても梅雨の大雨に続き、佐賀県豪雨、台風17号の通過により生乳の廃棄が発生しました。

酪農においては昨年度「畜産経営の安定に関する法律」が一部改正施行されました。加工原料乳生産者補給金制度が組み込まれる一方で、生産者補給金の交付対象の拡大や生乳の委託先が広がり、制限はあるものの生乳の販売先・委託先を選択することができるようになりました。全国においては外部販売の事例が散見され、生乳の需給調整を考慮しない販売が増えてくると長年培ってきた一元集荷多元販売の機能が弱まり生乳需給の混乱等が懸念されます。本会の販売・需給調整機能を維持強化するためには、全国の団体と連携し、動向等について情報を収集しながら適切に対応することが求められます。

31年度の乳価については、飲用向け、はつ酵乳等向けの取引価格が値上げとなり、その他の用途は据え置きとなりました。用途別販売においては年間を通じて域内飲用が比較的堅調に推移し、乳価値上げの影響もあり支払乳価は前年度と比較して3,000円/kg上回った単価となりました。

生乳生産量については595,930t(計画比98.3%、前年比98.5%)と計画・前年ともに下回りました。会員や関係先を含めた生乳増産への取り組みにより搾乳後継牛は増えてきましたが、増産には至らず、廃業離農も51戸となりました。

今年度1月分より集乳経費のプール化を実現したことで生乳販売代金と販売経費について完全プール化が実現されました。今後も引き続き生乳販売においては飲用化の推進と用途別販売数量の管理、販売経費においては経費削減による乳価アップに努め、負託に応えることで酪農家に必要とされる組織となるよう努力してまいります。また相互扶助の精神により組織の強化に努めてまいります。

1. 生乳受託販売数量

中期生乳需給安定化対策の2年目となる平成31年度は、平成31年度生乳需給安定化対策実施要領(平成31年3月4日開催 第17回理事会決定)に基づき、各会員が生産者からの積み上げにより作成し本会へ提出した平成31年度生乳委託計画の数量610,787,932kg、前年比100.9%をそのまま本会の平成31年度生乳出荷目標数量としました。

こうした中、4月は平成30年度下期で離農・廃業が重なったことにより前年比96.9%と低調なスタートとなりましたが、5月97.5%、6月97.8%と徐々に回復傾向が見られ、7月には長梅雨とそれに伴う冷涼な気候が味方し前年を上回る結果となりました。しかし、7月下旬の梅雨明け以降は猛暑となり、8月以降は再び前年を下回る推移となった結果、上期計では296,804t(計画比97.8%、前年比97.7%)と、計画・前年の数量をともに下回る実績となりました。下期においては、10月までは残暑による影響や、夏バテの兆候が見られたことから生乳生産量の回復は遅れたものの、11月以降は徐々に生乳生産量が増加傾向となり、前年比の回復が見られた結果、下期計では、299,126t(計画比98.7%、前年比99.1%)となりました。年度計では595,930t(計画比98.3%、前年比98.5%)と計画・前年の数量をともに下回る実績となりました。(表1)

表1 月別生乳受託販売数量実績 (単位:計画t、実績kg、%)

月	事業計画	実績	計画比	前年比
4	55,200	53,521,058	97.0	96.9
5	55,400	54,000,158	97.5	97.5
6	51,000	49,855,793	97.8	97.8
7	48,300	48,379,108	100.2	100.1
8	47,100	46,003,397	97.7	97.6
9	46,500	45,044,570	96.9	96.9
上期計	303,500	296,804,084	97.8	97.7
10	48,700	47,457,827	97.4	97.5
11	47,500	46,796,840	98.5	98.4
12	50,400	49,655,739	98.5	98.6
1	51,600	51,239,587	99.3	98.9
2	49,500	49,512,347	100.0	102.2
3	55,300	54,463,895	98.5	99.0
下期計	303,000	299,126,235	98.7	99.1
年度計	606,500	595,930,319	98.3	98.5

2. 生乳販売

平成31年度の生乳販売は、4月から飲用向けおよびはっ酵乳等向けの乳価改定とそれに伴う牛乳・ヨーグルトの小売り価格改定が行われましたが、懸念された極端な消費の落ち込みは見られず、域内飲用は4月以降前年を上回って好調に推移しました。上期の生乳受託販売数量が7月を除いて前年を2-3%下回る状況であったため、域外向けの販売数量を削減し、好調な域内需要への優先的な販売に努めました。しかし、梅雨寒の影響が大きかった7月には一時的に飲用需要が極端に減少し、特定乳製品向けが前年を上回りました。また、8-9月は残暑・大雨・台風等の自然災害の影響を受けて全国的に生乳受託販売数量が極端に減少する中、北海道から都府県へ生乳を輸送するフェリーが複数日に亘ってストップしたことも合わせ、都府県の生乳需給は飲用牛乳の供給が滞るほどに逼迫し、九州においても10月まで逼迫状態が継続しました。11月以降は気候条件も落ち着き、比較的安定した需給状況となりましたが、1月からは新型コロナウイルスの影響によるインパウンドの減少から全体的な消費の減退が徐々に見られるようになり、2月27日には政府が全国一斉の臨時休校を要請したことにより、3月の学乳向けはほぼなくなり(前年比5.4%)、域外飲用も大きく減少(前年比80.3%)、脱脂粉乳・バター等向けが大幅に増加(前年比118.7%)しました。

このような中、飲用牛乳等向けは416,967t(計画比98.4%、前年比98.2%)と計画・前年の数量を下回りました。また、このうち学乳向けは37,271t(計画比93.2%、前年比92.9%)と計画・前年の数量を下回りました。はっ酵乳等向けについては、88,296t(計画比97.0%、前年比97.3%)と計画・前年の数量をともに下回り、前年からの減少傾向が継続しました。脱脂粉乳・バター等向けについては、60,286t(計画比99.7%、前年比101.5%)と計画は下回りましたが、7月の天候不良、1~3月にかけての飲用需要の減退と新型コロナウイルスの影響により、前年を上回りました。クリーム等向けについては、29,228t(計画比97.7%、前年比99.5%)、チーズ向けについては、1,153t(計画比96.1%、前年比99.5%)となり、計画・前年の数量をともに下回りました。(表2-1)。

表2-1 用途別販売実績

(単位:計画t、実績kg、%)

用 途	計 画	実 績	計画比	前年比	構成比
域内飲用	281,320	293,355,902.3	104.3	104.1	49.2
学 給	39,970	37,270,818.7	93.2	92.9	6.3
域外飲用	102,580	86,340,578.6	84.2	84.1	14.5
飲 用 牛 乳 等 向 け 計	423,870	416,967,299.6	98.4	98.2	70.0
は っ 酵 乳 等 向 け	91,040	88,296,475.4	97.0	97.3	14.8
脱脂粉乳・バター等向け	60,470	60,285,550.0	99.7	101.5	10.1
ク リ ー ム 等 向 け	29,920	29,228,150.0	97.7	99.5	4.9
チ ー ズ 向 け	1,200	1,152,844.0	96.1	99.5	0.2
計	606,500	595,930,319.0	98.3	98.5	100.0

販売先を地域別に見ると、九州域内499,682t(前年比101.9%)、中国地区22,389t(前年比76.9%)、関西その他地区73,859t(前年比86.2%)の実績となりました(表2-2)。

表2-2 地域別販売実績

(単位:kg、%)

地域別	実 績	前年比	構成比
九 州	499,681,742	101.9	83.8
中 国	22,389,199	76.9	3.8
四 国	0	—	—
関西その他	73,859,378	86.2	12.4
計	595,930,319	98.5	100.0

3. 生乳販売価格・販売費用

平成31年度の生乳販売価格は、飲用向け・はっ酵乳等向けの値上げ(+4円)が実施され、その他の用途は据え置きとなりました。

こうした中、生乳販売は前述2のとおりとなり、この結果、生乳販売価格は前年+2.960円/kg、成分加算金を加えて+2.965円/kgとなりました。

販売費用については、域外向け出荷の減少により送乳費が前年△0.071円/kg、送乳費の総額から需要者負担額(乳業者からの運賃補填、前年△0.007円/kg)を差し引いた送乳費の生産者負担額は前年△0.018円/kg、CS・冷却費は保守修繕費等が圧縮され前年△0.018円/kgとなりました。また、令和2年1月分から集乳経費がプール化され、集乳経費を含んだ費用全体としては、前年△0.036円/kgとなりました。

生乳販売代金(基本乳代+成分加算金)から販売費用を差し引いた支払単価は前年+3.000円/kgとなりました。(表3)

4. 乳代精算

生乳代金の精算は、当月に販売したプール対象生乳代金に平成25年度に改正した季節別乳価実施要領の季節別乳価調整率(92~114%)を乗じて得た季節別乳価調整後金額を、会員ごとの受託乳量であん分し精算しました。月毎の調整により発生した調整残額と借越しの金利負担額は6~11月の受託乳量実績であん分し3月分生乳代金と同時に送金しました。(表4)

表3 販売乳価及び費用の比較

※千円単位での四捨五入のため計が一致しない場合がある。

年 度		31年度	30年度	差
乳 量		595,930 t	605,279 t	9,349 t
プール対象 生乳代金	金額	65,208,581千円	64,439,565千円	769,016千円
	単価	109.423円	106.463円	2.960円
	金額	1,042,598千円	1,056,517千円	△13,919千円
	単価	1.750円	1.746円	0.004円
生乳代金計	金額	66,251,180千円	65,496,082千円	755,097千円
	単価	111.173円	108.208円	2.965円
販 売 費 用	金額	3,483,464千円	3,559,818千円	76,354千円
	単価	5.845円	5.881円	△0.036円
支 払 乳 価	金額	62,767,716千円	61,936,265千円	831,451千円
	単価	105.327円	102.327円	3.000円

表4 生乳代金の精算

月	プール対象 生乳代金 (千円)	調整率 (%)	精算生乳代金 (千円)	調整額 (千円)	調整額累計 (千円)
4	5,737,859	94	5,393,587	344,272	344,272
5	5,942,181	94	5,585,650	356,531	700,802
6	5,600,486	100	5,600,486	0	700,802
7	5,356,991	110	5,892,691	△535,699	165,103
8	5,088,310	111	5,648,024	△559,714	△394,611
9	5,090,335	114	5,802,982	△712,647	△1,107,258
10	5,322,177	105	5,588,286	△266,109	△1,373,367
11	5,217,611	100	5,217,611	0	△1,373,367
12	5,277,959	93	4,908,502	369,457	△1,003,910
1	5,524,425	92	5,082,471	441,954	△561,956
2	5,393,516	92	4,962,035	431,481	△130,474
3	5,656,732	92	5,204,194	452,539	322,064
計	65,208,582		65,208,582	322,064	

※千円単位での四捨五入のため計が一致しない場合がある。

5. 加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金

平成31年度畜産物価格において加工原料乳生産者補給金および集送乳調整金の総交付対象数量は前年と同じ340万トン、生産者補給金単価は8.31円/kg(前年+0.08円/kg)、集送乳調整金単価は2.49円/kg(前年+0.06円/kg)、合計10.80円/kg(前年+0.14円/kg)となりました。

本会においては、畜産経営の安定に関する法律に基づき農林水産省へ提出した、年間販売計画の特定乳製品向け(脱脂粉乳・バター等向け、クリーム等向け、チーズ向けの合計)89,962.5トンについて交付対象数量として承認を受けました。

加工原料乳認定数量は89,779,926kgとなり交付対象数量内に収まりました。その結果、生産者補給交付金746,071,184円、集送乳調整金223,552,014円、総額969,623,198円の交付を受け、会員を通じて生産者へ四半期ごとに(ただし、第2四半期分は第4四半期と同時に概算払い。)支払いました。なお、受託乳量1kgあたり

の単価は、生産者補給金が1.261円、集送乳調整金が0.378円となりました。

表5 加工原料乳生産者補給金について

項 目	数 量
交付対象数量	89,962,500kg
認定数量	89,779,926kg
補給金交付数量	89,779,926kg

項 目	単 価	金 額
生産者補給金	8.31円/kg	746,071,184円
集送乳調整金	2.49円/kg	223,552,014円
合計	10.80円/kg	969,623,198円

6. 生乳増産奨励事業

本会会員を通じて本会に生乳販売を委託し、平成30年度の期首から平成31年度期末までの期間において生乳出荷を継続した生産者のうち、平成31年度の年間および需要期(6～11月)の生乳受託販売数量がともに前年を上回った生産者を対象とし、その増産度合いの高い順に表彰を行う増産奨励事業を実施しました。

対象期間中に生乳出荷を継続した生産者1,265戸のうち、年間および需要期の生乳受託販売数量がともに前年を上回った446戸を年間乳量に応じて部門分けし、各部門上位15名の計45名とその45名を除く部門ごとの各会員の上位1名の計21名、合わせて66名へ褒賞を授与することとしました。

7. 酪農理解醸成及び牛乳消費拡大対策事業

(1) 会員実施分

事業総額 39,209千円

各会員が実施した酪農理解醸成活動、牛乳消費拡大運動への助成を行いました。また、酪農が生活者にとってより身近なものとなるよう、「ファン獲得運動」としてフェイスブックを活用し、各会員から報告された地域のイベントや生産現場の記事や写真を生活者へ向けに発信しました。

(2) 本会実施分

事業総額 35,954千円

4月からの牛乳価格の値上がりや10月の消費税増税の影響により牛乳消費の落ち込みが懸念される中、九州の酪農の存在価値や果たすべき役割について生活者に訴求するとともに、牛乳・乳製品の消費拡大に繋げる事業を展開しました。

新聞を使った酪農理解醸成活動として、9月15日と10月13日の全国紙・地方紙の朝刊に「牛乳をあなたの力に。牛乳にあなたの力を。」をメインコピーに広告を掲出し、消費者に牛乳値上げに対する理解を訴求しました。

6月の「牛乳月間」では、6月1日に福岡でハッピーミルクフェスタ2019を開催しました。イベント内容としては、リーフレット等のサンプリング、牛乳・カルピス牛乳の無料試飲、模擬搾乳牛「くるみ」と模擬哺乳仔牛「クルクル」を使った擬似酪農体験、ステージイベント等を実施し、その内容をFM FUKUOKAで公開収録・放送して酪農理解醸成と牛乳消費拡大をアピールしました。また、2020年宮崎県で開催予定の全日本ホルスタイン共進会の告知パネル・カウントダウンパネルを展示し、全共開催をアピールしました。この他、9月・10月には長崎、熊本、鹿児島県の放送局主催のイベントに出展し、リーフレット等のサンプリングや「くるみ」、「クルクル」を使った搾乳・哺育体験、牛乳の試飲等を実施しました。

TVを活用した事業としては、昨年度制作した若手酪農家や農業高校の生徒達を紹介するテレビ番組を30年度に放映していなかった佐賀・宮崎2県で放映しました。また、4月からの牛乳価格の値上がりや10月の消費税増税の影響による牛乳消費の落ち込みを防ぐため、酪農家とスポーツ選手が出演するミニ番組「ミルクエール」を九州各県で制作し、放映しました。

牛乳料理の普及を図る事業として、ABCクッキングスタジオで牛乳を使用した料理教室を開催しました。また、小山浩子先生を講師とした乳和食教室を熊本県にて開催し、乳和食の普及・推進に努めました。

SNSを活用した事業としては、酪農に対する安心感・親近感を持ってもらうため、佐賀県の大富牧場、長崎県の松谷牧場の作業風景や視聴者に向けたメッセージ等を撮影・編集し、九州 Love Milk ClubのホームページとYouTubeに掲出しました。

(3) 牛乳定着化事業

事業総額 18,108千円(中酪助成金)

(一社)中央酪農会議『MILK JAPAN』活動を実施しました。『ハッピーミルクフェスタ2019』にてサンプリングや情報発信を行い、活動への参加・牛乳の消費拡大を訴えました。

さらに、MILK JAPANの認知率アップと「九州産」牛乳をPRし、牛乳購買の促進を図るため、11月に『九州生まれの秋ミルクで作るミルク芋ぜんざい』と題し、九州内の量販店牛乳売場にて店頭販促を実施しました。

(4) 酪農教育ファーム事業

事業総額2,062千円

(中酪助成金1,989千円、自己負担73千円)

生活者の酪農理解醸成を目的として幼稚園生から大学生及び親子連れや教育関係者を対象に酪農に触れる機会を設け、酪農体験などを実施する酪農教育ファーム活動を実施しました。九州地区では4月に活動報告と年間活動計画を諮るために酪農教育ファーム九州地区推進委員会を開催しました。

主な活動として、11月に熊本地震復興支援わくわくモーモースクールin 桜木東や学校で実施される酪農体験に係る費用補助を実施しました。酪農体験時における家畜伝染病予防法の対応として各地域の実態に沿った中で、「交流活動における感染症防疫マニュアル」を遵守し体験を行いました。また、認証牧場2戸に対し現地検査を行い安全に活動できる環境維持に努めました。

新規認証取得については、5月から募集を開始し新たに5名と1戸が新規認証を取得したので会員の協力のもと牧場の安全性や衛生面の現地審査を行いました。

年度末の認証牧場とファシリテーター数は表6-1、事業費の内訳は表6-2のとおりです。

表6-1 (単位 認証牧場:戸、ファシリテーター:人)

	認証牧場	ファシリテーター
福岡	5	11
佐賀	3	3
長崎	1	1
熊本	6	12
大分	5	13
宮崎	7	12
鹿児島	4	5
計	31	57

表6-2 単位(千円)

事業	内 訳		実績
	委託費	自己負担	
九州地区推進委員会	334	0	334
教員対象酪農体験学習会	346	0	346
酪農体験学習会(費用上限1/2補助)	84	73	157
会議出席旅費	68	0	68
既存認証牧場現地検査	37	0	37
新規認証牧場現地審査	8	0	8
その他	12	0	12
事業推進費	1,100	0	1,100
合計	1,989	73	2,062

8. 生乳検査事業

(1) 生乳検査成績

各検査項目(脂肪分率・蛋白質率・乳糖分率・無脂乳固形分率・氷点・乳中尿素・体細胞数・細菌数)の受託に係る配分検査を生産者バルククーラー単位に月2回、年24回実施しました。

乳質検査結果について、31年度の年間加重平均では脂肪分率3.88%・無脂乳固形分率8.78%でした。直近の5年間で比較しますと同等の値で高い乳成分を維持しています。

体細胞数について22.1万/mlと昨年度(21.3万/ml)より増加しています。過去5年間で最も高い数値ですが、変動幅は小さく毎年変動している範囲であります。昨年の梅雨明け後の猛暑と9月の厳しい残暑で搾乳牛に過大なストレスが掛かりましたが、生乳品質への大きな影響はありませんでした。

細菌数の平均数は2.8万/mlとなり、前年度(2.9万/ml)と同等の乳質を維持しました。これを前年度とのペナルティバルクの発生率で比較すると、30年度0.4%・31年度0.7%となり0.3%上昇と小幅な変動となっています。また、ペナルティ乳量の発生率は31年度0.4%で前年度0.3%より0.1%増加しています。

氷点の検査は、31年度もバルク乳での検査を実施し、改善が必要な生産者については会員へ指導を要請しました。本会が定める氷点の基準外のバルククーラーの割合については0.93%となり30年度0.60%より増加しました。

過去5年間の乳質等の推移は表7-1のとおりです。

表7-1

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
脂肪分率	3.86%	3.87%	3.89%	3.88%	3.88%
無脂乳固形分率	8.78%	8.80%	8.80%	8.78%	8.78%
全固形分率	12.64%	12.67%	12.69%	12.66%	12.66%
体細胞数	21.1万個	21.2万個	21.3万個	21.3万個	22.1万個
細菌数	2.3万個	2.7万個	2.9万個	2.9万個	2.8万個
氷点-0.510℃を超えるバルクの比率	0.56%	0.76%	0.76%	0.60%	0.93%

(2) 生乳検査本数

配分検査は酪農家戸数の減少により前年比95.5%。乳用牛群検定検査は飼養頭数の減少はありましたが、宮崎県の牛群検定検査が本会へ移行したため増加し、前年比112.8%となりました。依頼検査は前年比88.9%、生乳取引や生産者指導のための取引確認検査は前年比108.2%となりました。また、平成31年1月より開始したPAG検査(妊娠判定検査)は通年で4,390本の検査を行いました。検査総本数実績は計画比95.7%、前年比111.3%となりました。

乳用牛群改良検定事業については本年度より九州7県すべてで実施しました。また、乳業者との成分取引に係る検査については福岡・佐賀・熊本・大分・鹿児島について実施し、乳代精算に利用されました。

依頼検査は生産者からの依頼に応じて、指導検査は会員等からの依頼に応じて実施しました。

検査内容と実績本数については表7-2、検査種別・機器別の検査本数は表7-3のとおりです。

表7-2

(単位:本)

内容	年間計画	31年実績	30年実績	計画比	前年比
配分細菌検査	32,000	31,255	32,713	97.7%	95.5%
配分成分検査	32,000	31,255	32,713	97.7%	95.5%
牛群検定検査	1,009,000	955,389	847,101	94.7%	112.8%
依頼検査	20,600	19,135	20,683	92.9%	88.9%
PAG検査	3,360	4,390	840	130.7%	522.6%
取引検査		47,642			
配分再検査	53,000	1,299	55,117	102.3%	108.2%
指導検査		10,709			
総検査本数	1,149,960	1,101,074	989,167	95.7%	111.3%

表7-3

上段:本数 下段:前年比

検査種別	コンビフォス	バクトスキャン	PAG検査
配分検査	31,255本 95.5%	31,255本 95.5%	—本 —%
牛群検定検査	955,389本 112.8%	—本 —%	—本 —%
依頼検査	17,232本 95.4%	1,903本 74.9%	4,390本 522.6%
取引検査	47,642本 100.4%	—本 —%	—本 —%
配分再検査	1,299本 96.8%	—本 —%	—本 —%
指導検査	7,578本 150.6%	3,131本 242.5%	—本 —%
合 計	1,060,395本 111.4%	36,289本 99.3%	4,390本 522.6%

(3) 生乳検査料金

検査料金は受託乳量に対し0.12円/kgを徴収しました。その他の検査料金は乳用牛群検定45円/本、依頼検査は成分・体細胞で100円/本、細菌検査300円/本、PAG検査800円/本です。

ペーパーディスク検査用シャーレについては、100円/枚でふくおか県酪農協・長崎県酪連・大分県酪農協に継続して供給しました。

(4) 検査所組織と検査精度

生乳検査所の更なる機能の拡充と充実に努めました。本会は精度管理認証制度において「検査部門」(乳脂肪分率・無脂乳固形分率・体細胞数)及び、「検体採取部門」について認証を受け、年4回実施された外部精度管理に参加しました。結果は全ての項目において許容範囲内の精度を維持していました。3月末時点での

全国の検査施設における認証取得状況は表7-4のとおりです。

機器の整備について、酪農家の減少・搾乳牛不足により生産乳量の減少が見込まれる中、修理コストの削減と効率的な検査の実施のため、機器のメンテナンスを熟知した技術職員の養成に努めました。また、検査機器の精度の維持、管理のため自主点検及び整備を定期的に実施しました。

表7-4 認証検査機関の分類

分類・地域	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄	計
指定団体系	1	2	1	1	1	1	2	1	1		11
大手商系		4	9		3	6		1	3	1	27
中小商系			1			1					2
農プラ	3		2				1				6
計	4	6	13	1	4	8	3	2	4	1	46

(5)検査技術の普及

会員CS職員等の生乳に関する基礎知識の習得、検査技術の確認と向上を図るため、生乳検査技術研修会を平成31年度は5、8、11月に3回開催し、組合・CS等の職員の他、検査関連の職員、農プラ系乳業の品質管理担当職員など18名の参加がありました。なお、講師は本会生乳検査所職員が行い職員の資質向上の機会と知識の習得にも寄与しました。

また、集送乳乗務員に対する研修会を2会員に延べ5回実施しました。その他に会員が開催する乳質改善の講習会に講師を派遣し、正確な検体採取と乳質の劣化防止、生乳の品質向上に関する講習会を行いました。

(6)生乳の安全・安心の確保

生乳の安全・安心の確保のための九州地域協議会を行政や各種指導機関、乳業者と乳業者団体、生乳生産に関連する業者を参集し9月に開催しました。

チェックリストの記帳率100%を達成するため「出荷伝票方式」になり7年が経過しましたが、多くの項目において記帳が出来ていない酪農家はなくなり、巡回検証において6項目全て×の農家数はゼロを達成しました。

各会員が行った重点記帳項目等の巡回検証結果は表7-5のとおりです。

表7-5 重点記帳項目等の記帳状況

6項目全て○の農家	○又は×が混在する農家	6項目全て×の農家
1,237戸	51戸	0戸

Jミルクが実施するポジティブリストに係る検査対象物質13物質(動物用医薬品7物質、殺菌用消毒剤・殺虫剤6物質)の結果は、全てのサンプルで不検出でしたが、搾乳関連場所以外でDDACとパコマの使用実態があるため、生産者へ注意喚起を行いました。また搾

乳器具の殺菌は次亜塩素酸ナトリウムに統一した指導を継続して行いました。

発がん性を持つカビ毒アフラトキシンM1の生乳中への残留規制も27年7月に始まり残留の防止について、その啓蒙・周知を図りました。また、Jミルクの依頼により生乳中のアフラトキシンM1検査を11月に2検体(全国17検体)実施し、全てのサンプルで「陰性」となりました。

31年度のタンクローリー生乳廃棄事故は71件・392トン(前年50件・272トン)発生し、前年より件数・廃棄乳量ともに増加しました。発生原因で多いのは抗生物質陽性で、混入事故件数は昨年より増加し31件・117トン(前年26件・160トン)、原因割合の43.7%を占めていました。細菌異常による廃棄事故は17件・107トン(前年8件・25トン)、原因割合で23.9%を占めています。また、黒色斑点(搾乳施設に起因する)及びバルク室内環境による異物混入が20件・84トン(前年10件・43トン)、原因割合で28.2%を占めました。多くの事故は人為的ミス・点検確認漏れ等であり未然に防止できるものでした。対策として生乳廃棄を減らすために、事故の際には詳細を報告してもらい原因を究明し、会員へ周知徹底を図り事故の未然防止に努めました。

(7)生乳品質共励会の開催

平成31年度生乳品質共励会を平成31年4月1日～令和2年3月31日の対象期間で開催しました。その結果、審査対象農家は1,278戸(大学校、高等学校を含む)で、最高得点は1,188点・平均点は893点(前年比-13点)となりました。上位入賞者は、最優秀賞が第1部 黒木英教氏1,188点(宮崎県)・第2部 松谷茂氏1,187点(長崎県)・第3部 (有)限部牧場1,161点(熊本県)となり、その他 優秀賞30名、優良賞(1,000点以上)222名、連続優秀賞(29年度～31年度)に10名の生産者が受賞されました。

9. 補助事業

本年度は以下の補助事業を行いました。

- (1)生乳生産者需要確保事業 16,248,068円
- (2)国産チーズ生産奨励事業 1,102,344円
- (3)加工原料乳生産者経営安定対策事業 118,524円

10. 酪農乳業産業基盤強化特別対策事業

一般社団法人Jミルクが実施する酪農乳業産業基盤強化特別対策事業のうち地域生産基盤強化支援事業を実施し、助成額は本会実施分が232,252円、会員実施分が55,736,355円、合計55,968,607円となりました。

11. 総務部門

(1) 内部留保の充実

自己資本の強化を図る目的から、平成30年度剰余金のほとんどを任意積立金として内部留保に充て、経営健全化の資金として積立てを行いました。

(2) 効率的な資金管理

年間資金計画に基づき効率的な資金管理に努めました。生乳代金の債権管理については、販売部と連携し遅延先との協議を図りながらその減額に努め、財務の健全化に取り組みました。

(3) コンプライアンス態勢の推進

コンプライアンス態勢や規程及び要領の理解を深めるため、コンプライアンス研修会を実施し職員への法令等の遵守、個人情報保護等周知徹底に努めました。

今年度は外部講師を招いてハラスメント研修会を行い、防止の周知徹底を行いました。

(4) 情報の提供

年4回「九州生乳販連会報」を発行し、会員、酪農家および関係団体へ生乳生産状況や販売状況、酪農を取り巻く環境の動向、酪農理解醸成や消費拡大事業など情報の提供を行いました。

貸借対照表

第21年度(令和2年3月31日現在)

(単位:千円)

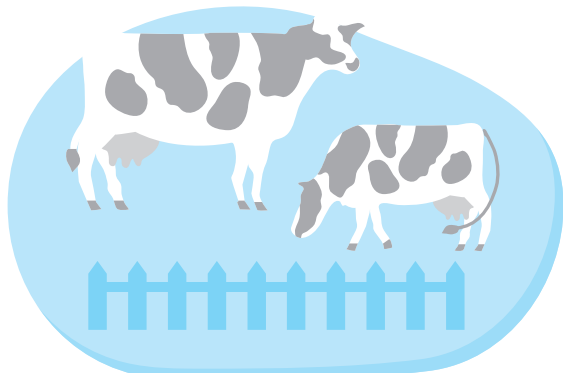
科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	7,979,046	流動負債	7,509,733
1. 預金	675,136	1. 短期借入金	0
2. 事業未収金	7,359,787	2. 事業未払金	7,161,810
3. 棚卸資産	8	3. リース債務	22,340
4. 雑資産	9,823	4. 雑負債	325,583
5. 貸倒引当金	△65,707	固定負債	87,032
固定資産	187,421	負債の部合計	7,596,765
1. 有形固定資産	88,636	出資金	70,000
2. 無形固定資産	0	利益準備金	140,000
3. 外部出資その他の資産	98,785	特別積立金	10,000
		目的積立金	308,000
		繰越利益剰余金	41,702
		純資産の部合計	569,702
資産の部合計	8,166,467	負債・純資産の部合計	8,166,467

損益計算書

第21年度(平成31年4月1日より令和2年3月31日まで)

(単位:千円)

科目	金額
1 事業総利益	225,386
(1) 販売事業収益	70,687,058
(2) 販売事業費用	70,561,002
販売事業総利益	126,056
(3) 消費拡大事業収入	18,177
(4) 消費拡大事業費用	17,177
消費拡大事業総利益	1,000
(5) 検査事業収益	122,743
(6) 検査事業費用	24,412
検査事業総利益	98,331
(7) 補助事業収益	17,469
(8) 補助事業費用	17,470
補助事業総利益	△ 1
2 事業管理費	187,412
事業利益	37,974
3 事業外収益	10,873
4 事業外費用	4,549
経常利益	44,299
5 特別利益	0
6 特別損失	238
税引前当期純利益	44,061
法人税等合計	11,209
当期純利益	32,852
繰越利益剰余金期末残高	41,702



生乳品質共励会表彰式

平成31年度生乳品質共励会の表彰式は、新型コロナ感染防止のため中止いたしました。

今回も生乳品質共励会開催要領に基づき、昨年4月から3月までの1年間を対象に、月2回実施した乳質検査の結果を配点基準により採点し24回の合計点数を1,200点満点で評価したものです。

それぞれの審査項目と基準値は、脂肪分率3.8%以上・無脂乳固形分率8.7%以上・細菌数3万以下・体細胞数10万以下・氷点-0.520℃以下という、厳しいものになっています。

今年度は、対象となる1,286バルクの平均点は893点となり、前年より-13点という結果になりました。生産乳量階層別に3部門(第1部:250ℓ未満、第2部250ℓ以上500ℓ未満、第3部500ℓ以上)の3名に最優秀九州生乳販連会長賞が授与され、その栄誉を称えました。

第1部の黒木英教氏(宮崎県)には九州農政局長賞とJミルク会長賞を、第2部の松谷茂氏(長崎県)には(一社)日本乳業協会会長賞と全国酪農業協同組合連合会会長賞が、第3部の(有)限部牧場(熊本県)には(一社)中央酪農会議会長賞と全国農業協同組合連合会会長賞がそれぞれ贈られました。

また、今回は過去3年間(29年度～31年度)に優秀賞を連続して獲得された方の表彰があり、3年連続優秀賞受賞記念のステンレスプレートが贈られました。上位30名には、優秀賞が授与され、優秀賞受賞記念のステンレスプレートが、1,000点以上を獲得された222名の優良賞受賞者には「2020 優良生乳生産管理牧場」のステッカーがそれぞれ贈られました。今回優秀賞と連続優秀賞を獲得された方々は、下記のとおりです。

平成31年度 優秀賞受賞者名簿及び得点

番号	県	氏名	得点	規模別ランク	表彰	番号	県	氏名	得点	規模別ランク	表彰
1	宮崎県	黒木 英教	1,188	1	1部最優秀賞	18	熊本県	(有)サウスウインド	1,135	3	優秀賞15
2	長崎県	松谷 茂	1,187	2	2部最優秀賞	19	熊本県	黒石 哲博	1,134	3	優秀賞16
3	熊本県	(有)限部牧場七城	1,161	3	3部最優秀賞	20	長崎県	吉田 秀行	1,134	1	優秀賞17
4	大分県	(株)ゆふいん牧場	1,177	1	優秀賞1	21	熊本県	井芹 康弘	1,129	1	優秀賞18
5	長崎県	山口 直敏	1,175	1	優秀賞2	22	佐賀県	中江 秀夫	1,129	1	優秀賞19
6	福岡県	江上 正生	1,158	3	優秀賞3	23	熊本県	本田 真人	1,127	2	優秀賞20
7	宮崎県	北畑 和徳	1,156	2	優秀賞4	24	宮崎県	坂下 純二	1,126	2	優秀賞21
8	宮崎県	松浦 博俊	1,153	3	優秀賞5	25	熊本県	村岡 泰司	1,124	1	優秀賞22
9	熊本県	(有)櫻井牧場	1,152	3	優秀賞6	26	熊本県	松田 信一	1,122	1	優秀賞23
10	宮崎県	高千穂牧場	1,144	2	優秀賞7	27	熊本県	右田 祐樹	1,121	2	優秀賞24
11	大分県	(有)田中牧場	1,143	2	優秀賞8	28	熊本県	(有)ホーミーバスター	1,116	3	優秀賞25
12	長崎県	井上 紀一	1,143	1	優秀賞9	29	熊本県	上田 健治	1,116	2	優秀賞26
13	熊本県	竹野 良一	1,141	2	優秀賞10	30	宮崎県	財部 猛	1,110	2	優秀賞27
14	長崎県	尾崎 昌幸	1,140	1	優秀賞11	31	熊本県	深水 誠弥	1,110	1	優秀賞28
15	大分県	板井 俊之	1,139	1	優秀賞12	32	福岡県	江藤 秀樹	1,109	3	優秀賞29
16	鹿児島	牧瀬 勝利	1,138	3	優秀賞13	33	鹿児島	柳下町 優三	1,109	1	優秀賞30
17	熊本県	平山 将	1,136	2	優秀賞14						

規模別ランク: 1は250ℓ未満 2は250～500ℓ 3は500ℓ超

(敬称略)

連続優秀賞受賞者名簿 (平成29年度～31年度)

番号	県	氏名	29年度	30年度	31年度
1	福岡県	江上 正生	優秀賞14	優秀賞18	優秀賞3
2	長崎県	井上 紀一	優秀賞2	優秀賞3	優秀賞9
3	長崎県	松谷 茂	優秀賞4	優秀賞1	2部最優秀賞
4	熊本県	上田 健治	優秀賞9	優秀賞5	優秀賞26
5	熊本県	右田 祐樹	優秀賞5	優秀賞13	優秀賞24
6	熊本県	井芹 康弘	優秀賞16	優秀賞2	優秀賞18
7	熊本県	(有)限部牧場七城	3部最優秀賞	優秀賞10	3部最優秀賞
8	宮崎県	黒木 英教	2部最優秀賞	2部最優秀賞	1部最優秀賞
9	宮崎県	高千穂牧場	優秀賞19	優秀賞14	優秀賞7
10	鹿児島	牧瀬 勝利	優秀賞22	3部最優秀賞	優秀賞13

(敬称略)

平成31年度 生乳品質共励会受賞者たち



黒木 英教 様
(生乳品質共励会 最優秀賞・・・3年連続受賞)

3年連続最優秀賞を受賞でき大変光栄です。
これからも良質な生乳生産に努めていきたいと思っています。



長崎県酪農業協同組合連合会
ながさき県酪農業協同組合
所属 松谷 茂 様
(コメント:松谷 圭一郎 様)

1年間常に高水準の品質を保つ事はとても大変でしたが、今回第2部最優秀賞を頂けて嬉しいです。

日頃の飼養管理も気を付けていますが、牛達が毎日健康でしっかり能力を発揮してくれているので、牛達に感謝です。

最近では震災や水害、新型コロナウイルス等とても困難な状況の中、九州の酪農家の皆さんも頑張っておられるので、私も九州の生産者として微力ながら高品質な牛乳生産を頑張っていきたいと思っています。



有限会社 限部牧場 様

今回、自身2度目の最優秀賞と3年連続の優秀賞という素晴らしい賞をいただき、恐縮ながらも大変光栄に思います。

今年4月に亡くなった祖母の代から受け継いだ「限部牧場」での受賞なので、天国から喜んでくれると思います。

牛乳を作ってくれる牛たち、家族、従業員、酪農関係者の方々、また「らくのう牛乳」を手にとって飲んでいただいている消費者の皆さん・・・さまざまな繋がりがあってこそ頂けた賞なので、日頃より支えてくださっている皆様への感謝に尽きます。

近年、自然災害、疫病の流行などいろいろなことに見舞われていますが、少しでも皆さんの元気・笑顔・力のもととなるよう、美味しく品質の良い牛乳を今後も生産していきたいと思っています。

平成31年度生乳増産奨励事業 実施報告

本事業は、本会会員を通じて本会に生乳の販売を委託し、平成31年度期首から期末までの1年間生乳出荷を継続した生産者のうち、年間および需要期(6～11月)の生乳受託販売数量がともに前年を上回った方を対象とし、その増産割合の高い順に表彰を行うものです。平成31年度は1,265戸の方が年間を通じて出荷を行い、そのうち35.3%にあたる446戸が年間および需要期ともに前年を上回る結果となりました。以下に、部門ごとの褒賞対象者一覧、部門ごとの最上位者の方から頂戴したコメントを掲載し、事業の実施をご報告します。

褒賞対象者一覧

褒賞 部門	250㍓未満の部		250㍓以上、500㍓未満の部		500㍓以上の部	
	氏 名		氏 名		氏 名	
1位	有限会社ダイワファーム	宮崎	株式会社クマヒロファーム	熊本	永 田 弘	福岡
2位	森 沢 達 也	佐賀	迫 昭 一 郎	熊本	株式会社テクノアグリ	熊本
3位	中 原 一 壽	熊本	斉 木 義 直	熊本	株式会社本部農場	宮崎
4位	野 口 敦 宏	佐賀	有限会社馬場牧場	福岡	尾 方 学	熊本
5位	右 田 賢	熊本	内 田 久 一	熊本	井 川 貞 信	長崎
6位	地 福 守	宮崎	亀 澤 義 行	鹿児島	株式会社風の牧場	佐賀
7位	株式会社ゆふいん牧場	大分	平 山 一 浩	熊本	田 中 真 志	宮崎
8位	黒 木 勇 八	熊本	佐 々 木 博 文	熊本	有限会社モーモーファーム竹原牧場	熊本
9位	吉 松 幸 治	鹿児島	大 村 達 也	熊本	株式会社イケダテリーファーム	宮崎
10位	赤 瀬 弘 昭	大分	片 峰 啓 二	福岡	株式会社阿蘇ファーム	熊本
11位	内 田 幸 二	宮崎	脇 田 廣 昭	鹿児島	株式会社豊永ファーム	熊本
12位	甲 斐 英 幸	大分	中 原 一 明	熊本	城 薫	宮崎
13位	久 野 光 則	長崎	有限会社村上牧場	熊本	眞栄ファーム有限会社	熊本
14位	中 西 廣	宮崎	谷 口 義 廣	宮崎	有限会社結城ファミリーファーム	福岡
15位	南 脇 大 輔	鹿児島	荒 木 和 也	熊本	阪 本 孝 治	熊本
奨励賞	午 除 正 幸	鹿児島	大 淵 優 太	福岡	神戸畜産株式会社	宮崎
	愛 甲 和 広	熊本	斉 藤 浩 寿	熊本	有限会社ビーユーファーム	熊本
	山 中 修 一	宮崎	田 辺 政 洋	宮崎	田 中 信 義	福岡
	金 田 克 郎	長崎	有限会社塚島ファーム	佐賀	有限会社池田農場	鹿児島
	光 武 仁 士	佐賀	豊 田 伸 司	大分	有限会社坂本牧場	大分
	宮 下 徹	大分	鮫 島 正 和	鹿児島	馬 場 秀 樹	長崎
	田 村 亜 希 子	福岡	井 村 幸 晴	長崎	松 本 浩 文	佐賀

(敬称略)

【最上位者コメント】



有限ダイワファーム 様

1位を獲得でき大変うれしく思います。これからの生乳生産の励みになります。ありがとうございます。



有限クマヒロファーム 様

1年間頑張ってきた事が評価され、賞を頂き有り難うございます。皆で喜んでおります。これを糧に今後、知恵を出しながら増産に乳質向上に頑張っていきます。



永田 弘 様

畜産クラスター事業を活用し、搾乳ロボットや閉鎖型牛舎・横断換気システムなど次世代酪農に挑戦することができ、大きな事故もなくスムーズに運営できたことが、今回の生乳増産に繋がりました。今後とも地域に溶け込み、増産体制を家族で頑張っていきたいと思っています。

生乳生産量の増産・維持に向けた取り組み、誠にありがとうございました。

酪農情勢報告

1. 九州の生乳出荷戸数

令和2年6月の生乳出荷戸数は1,278戸で、令和2年3月時点の1,289戸と比較すると11戸減少しています。

2. 九州の乳用種雌牛飼養頭数と出生頭数

23カ月令以下の頭数はこれまで前年を上回って高い水準で推移していましたが、徐々に前年の頭数に近付いてきており、6月においては前年比101.6%と前年に近い頭数になっています。また、24カ月令以上の頭数は前年を下回る推移が続いており、総頭数では徐々に前年との乖離が大きくなってきています。

表1 乳用種雌牛飼養頭数 (単位: 頭)

	4月	5月	6月
23カ月令以下	30,603	30,557	30,152
	増減	1,280	476
	前年比	104.4%	101.6%
24カ月令以上	75,691	75,185	74,958
	増減	-2,083	-2,008
	前年比	97.3%	97.4%
総頭数	106,294	105,742	105,110
	増減	-803	-1,532
	前年比	99.3%	98.6%

注: Jミルクホームページより

3～5月の出生頭数は、総頭数は前年を上回っており、その内訳として、乳用種雌・交雑種が前年を上回り、乳用種雄は前年を下回りました。

表2 出生頭数 (単位: 頭)

	3月	4月	5月
総頭数	3,601	2,843	2,257
	増減	72	96
	前年比	102.0%	104.4%
うち、乳用種雌	811	605	479
	増減	-81	49
	前年比	90.9%	111.4%
うち、乳用種雄	534	352	226
	増減	-97	-80
	前年比	84.6%	73.9%
うち、交雑種	1,821	1,483	1,080
	増減	305	90
	前年比	120.1%	109.1%

注: Jミルクホームページより

3. 生乳需給

(1) 生乳受託販売数量

4～6月の生乳受託販売数量は、4月は前年を下回りましたが、5・6月は前年を上回り、4～6月合計ではほぼ前年並みとなりました。

また、同期間中の都府県および北海道の生乳受託販売数量は前年を上回り、全国でも前年を上回りました。

表3 生乳受託販売数量 (単位: t, %)

	4月	5月	6月
九州	52,479	53,843	49,721
	前年比	98.8%	100.5%
都府県	269,527	276,553	256,854
	前年比	99.9%	100.3%
北海道	331,893	348,244	338,303
	前年比	103.3%	101.6%
全国	601,420	624,797	595,157
	前年比	101.7%	101.1%

注: 中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より

注: 公共除く。ただし、都府県の内訳として中国のみ公共含む。

(2) 生乳販売状況

4～6月の生乳販売状況については、4の「新型コロナウイルス感染症の影響について」にまとめてありますので、そちらをご確認ください。

表4 用途別販売数量 (単位: t, %)

	用途	4月	5月	6月
九州	飲用牛乳等 (前年比)	32,738 93.1%	38,411 99.3%	37,799 101.4%
	はつ酵乳等 (前年比)	7,163 96.1%	7,432 95.4%	7,732 98.1%
	脱脂粉乳・バター等 (前年比)	10,148 131.5%	5,831 129.1%	1,919 96.8%
	クリーム等 (前年比)	2,338 86.7%	2,080 82.7%	2,176 96.9%
	チーズ (前年比)	92 91.5%	90 88.2%	95 107.6%
全国	飲用牛乳等 (前年比)	247,247 95.9%	265,317 94.1%	290,263 101.7%
	はつ酵乳等 (前年比)	40,617 101.1%	43,258 104.8%	41,285 102.4%
	脱脂粉乳・バター等 (前年比)	182,813 124.3%	172,740 118.8%	126,955 104.7%
	クリーム等 (前年比)	94,424 83.7%	102,571 93.6%	103,130 95.5%
	チーズ (前年比)	36,319 109.5%	40,911 113.9%	33,523 98.3%

注: 中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より

4. 新型コロナウイルス感染症の影響について

3月には全国一斉の休校措置が実施されましたが、4月7日には7都府県を対象とする緊急事態宣言、16日には全国を対象とする緊急事態宣言が出され、外出自粛・休業要請等が行われました。この結果、学校が再び休校になり、学乳向けは前年を大幅に下回りました。また、3月同様全国的な学乳停止を受け、域外飲用は大幅に減少しました。

さらに、外出自粛・休業要請の影響により業務用牛乳・乳製品の需要が大きく減少し、これらの結果、脱脂粉乳・バター等向けが大幅に増加しました。学校給食休止で家庭内消費が伸びたことと、農林水産省が牛乳消費拡大を呼びかける「プラスワンプロジェクト」が行われた結果、市乳・ヨーグルトは好調に推移しましたが、学乳向けや業務用の需要減少を補うには至りませんでした。

5月に入っても感染拡大の収束が見えない中、学乳向けについては、学校再開が地域の状況に応じて段階的に行われたことや、時差登校や分散登校で給食の再開が遅れたことから、前年を大きく下回りました。一方、市乳向けは好調を

維持し、併せて業務用牛乳の動きが出始めたことで、域内飲用は前年を大きく上回りました。また、全国的な飲用需要の回復により域外飲用も前年を上回りました。飲用向けについては前年を上回ることができましたが、学乳向けを含むその他用途の減少により、5月の脱脂粉乳・バター等向けは前年を大きく上回りました。

6月は、一部地域を除き通常どおり学乳供給が行われ、供給日が昨年より1日多かったこともあり、学乳向けは前年を上回りました。また、学乳供給が再開後も市乳は好調を維持し、合わせて業務用牛乳・乳製品の需要回復が見られ、飲用牛乳等向けが前年を上回り、脱脂粉乳・バター等向けは前年を下回りました。

全国一斉の臨時休校要請(3月)、緊急事態宣言(4～5月)により学乳向けが減少し、脱脂粉乳・バター等向けが増加し

た乳価下落分に対しては、「生産者需給緩和緊急対策事業」が措置され、学乳向けと脱脂粉乳・バター等向けとの価格差が補てんされています。

5. 今後の生乳需給について

7月上旬は、「令和2年7月豪雨」により九州各地の生乳生産・生乳流通は大きな影響を受け、また一部地域では豪雨による休校で学乳向けが減少し、市乳の販売状況も悪化しました。

一方、7月下旬から8月にかけては、従来の夏休み期に授業が予定され、学乳向けが前年を大きく上回ることが見込まれ、夏季の飲用牛乳需要期における需要増となるため、これまでにない逼迫が予測されます。

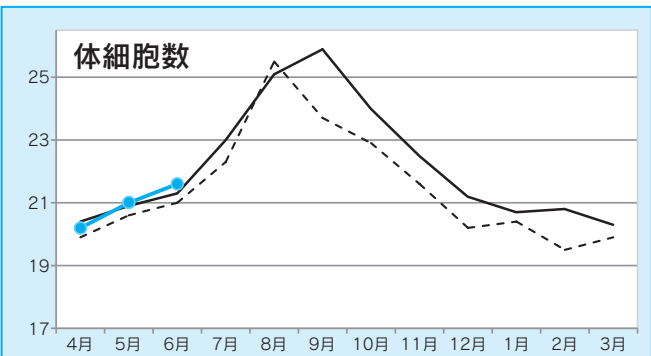
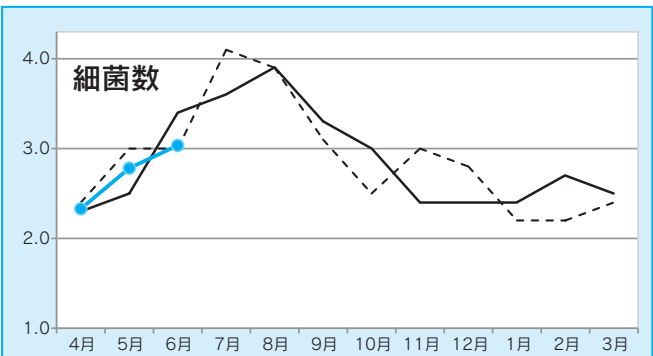
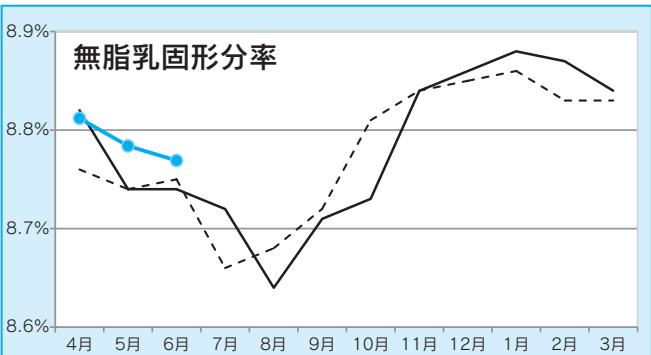
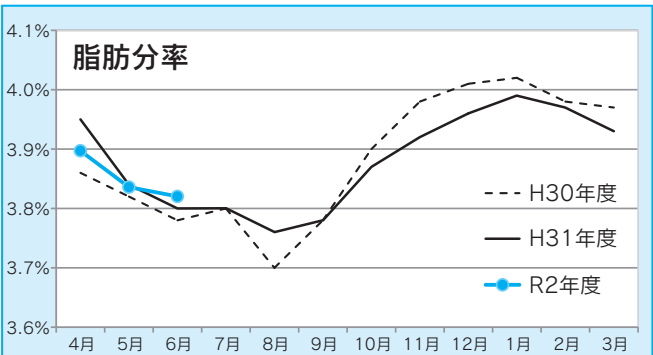
他方では、6月で一時収束に近付いたように見えた新型コロナウイルス感染症は、7月中旬で感染拡大に向かっており、第2波による生乳需給への影響が懸念されます。

このように、今年度は新型コロナウイルスや自然災害で一時として例年どおりということがなく、また今後も予測を許さない状況が続くものと思われます。新型コロナウイルスへの対応として「新しい生活様式」の実践・定着が呼びかけられていますが、生乳販売においても、状況に則した販売が行えるよう情報集約に努めるとともに、臨機応変な対応が取れるよう関係各所と連携を取ってまいります。

表5 生産者需給緩和緊急対策事業補助金について

	販売数量 (公共除く) (①: t)	補助金額 (②: 千円)	単価 ②/① (円/kg)
3月	54,077	82,921	1.533
4月	52,479	100,317	1.912
5月	53,843	53,999	1.003

令和2年度 月別受託生乳検査成績



人事異動

[退職] 令和2年7月31日付
販売部 花田 拓也

令和2年度会員別生乳受託販売数量

(単位: t、%)

	ふくおか県酪協		佐賀県農協		長崎県酪連		熊本県酪連		大分県酪協		宮崎県経済連		鹿児島県酪協		合 計	
	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比
4月	6,406,989	95.6	1,303,018	100.4	3,223,511	98.2	22,352,278	100.9	6,126,441	101.8	6,563,674	97.6	6,889,919	93.9	52,865,830	98.8
5月	6,514,863	96.8	1,321,386	101.0	3,283,951	100.6	22,992,809	102.5	6,288,672	102.8	6,700,630	98.4	7,134,164	97.3	54,236,475	100.4
6月	6,074,436	97.0	1,219,771	100.7	2,959,962	99.7	21,332,305	102.2	5,756,378	101.8	6,231,636	98.2	6,503,988	99.3	50,078,476	100.4
合 計	18,996,288	96.5	3,844,175	100.7	9,467,424	99.5	66,677,392	101.9	18,171,491	102.1	19,495,940	98.1	20,528,071	96.8	157,180,781	99.9

令和2年度販売状況について

用途別生乳販売実績

(単位 数量:t、前年比:%単価:円/kg)

用 途		4月			5月			6月			第1四半期計		
		数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価
飲用等向け	域 内 飲 用 向	24,278	101.9	114.320	26,370	106.7	114.784	25,330	99.1	115.468	75,978	102.5	114.880
	学 校 給 食 向	747	28.6		1,347	34.8		4,462	104.3		6,557	60.9	
	域 外 飲 用 向	7,997	88.5		10,995	105.7		8,324	106.7		27,316	100.3	
	飲用牛乳等向計	33,021	93.1		38,712	99.3		38,116	101.3		109,850	98.0	
	は っ 酵 乳 等 向	7,163	96.1		7,432	95.4		7,732	98.1		22,327	96.6	
	飲用等向合計	40,184	93.6		46,145	98.6		45,848	100.8		132,177	97.8	
特定乳製品向け	脱脂粉乳・バター等向	10,234	131.5	78.283	5,903	128.8	79.617	1,941	97.0	82.452	18,078	125.8	79.420
	ク リ ー ム 等 向	2,355	86.8		2,099	83.0		2,194	97.0		6,649	88.6	
	チ ー ズ 向	92	91.5		90	88.2		95	107.6		277	95.3	
	特定乳製品向計	12,682	119.6		8,092	112.1		4,230	97.2		25,004	112.8	
販 売 乳 量 合 計		52,866	98.8	105.675	54,236	100.4	109.538	50,078	100.4	112.679	157,181	99.9	109.239

支払乳代

(単位 金額:千円、単価:円/kg)

項 目	4月		5月		6月		第1四半期計	
	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価
基 本 乳 代 ①	5,586,620	105.675	5,940,930	109.538	5,642,782	112.679	17,170,332	109.239
脂 肪 加 算 金	44,084	0.834	37,694	0.695	31,450	0.628	113,229	0.720
無 脂 固 形 加 算 金	53,706	1.016	51,024	0.941	45,921	0.917	150,651	0.958
成 分 加 算 金 計 ②	97,790	1.850	88,718	1.636	77,372	1.545	263,879	1.679
季 節 別 調 整 率 ③	94%		94%		100%			
季 節 別 調 整 額	-335,197	-6.341	-356,456	-6.572	0	0.000	-691,653	-4.400
調整後乳代④=①×③	5,251,423	99.335	5,584,474	102.965	5,642,782	112.679	16,478,679	104.839
販 売 手 数 料	-17,053	-0.323	-18,089	-0.334	-17,160	-0.343	-52,303	-0.333
生 乳 検 査 料	-6,344	-0.120	-6,508	-0.120	-6,009	-0.120	-18,862	-0.120
送 乳 経 費	-206,164	-3.900	-239,061	-4.408	-206,917	-4.132	-652,143	-4.149
需要者負担額(運賃補填)	1,111	0.021	1,756	0.032	1,701	0.034	4,568	0.029
C S ・ 冷 却 費	-54,211	-1.025	-53,251	-0.982	-54,178	-1.082	-161,640	-1.028
集 乳 経 費	-120,970	-2.288	-123,891	-2.284	-114,467	-2.286	-359,328	-2.286
プ ー ル 費 用 ⑤(集乳経費含む)	-403,631	-7.635	-439,044	-8.095	-397,032	-7.928	-1,239,707	-7.887
差引乳価②+④+⑤(集乳経費含む)	4,945,582	93.550	5,234,148	96.506	5,323,121	106.296	15,502,851	98.631

(参考)集乳経費を除いた販売経費による支払乳価の比較

プ ー ル 費 用 ⑥(集乳経費含まず)	-282,662	-5.347	-315,154	-5.811	-282,564	-5.642	-880,379	-5.601
差引乳価 ②+④+⑥ (集乳経費含まず)	5,066,552	95.838	5,358,039	98.790	5,437,589	108.581	15,862,179	100.917

PAG検査(妊娠確認検査)利用拡大について

生産者の皆さんPAG検査をご存知ですか?「もうすでに利用されている」という方もいらっしゃると思いますが、新たな妊娠判定確認の選択肢の一つに「PAG検査」があります。

従来からの獣医師等による直腸検査法やエコー検査より、牛個体へのストレス負担軽減や、乳汁により手軽に検査結果が得られることもあり、検査開始から徐々に検査本数が増加傾向にあります。

また、今年の令和2年4月からのPAG検査実施分の検査料については会員生産者さまの繁殖改善の一助と利用拡大のために検査料の助成が行われております。

事業助成内容については以下の通りになっております。



(1)乳用牛繁殖改善事業によるPAG検査料の助成について

1. 内 容

近年の生乳生産量の減少の一因となっている乳用牛の受胎率の低下・分娩間隔の長期化に対して、早期の妊娠判定確認の選択肢の一つとなるPAG検査の検査料の助成を行うことにより、生産者の繁殖成績の一助とする。

2. 対象者

本会検査所および会員検査施設においてPAG検査を依頼した会員生産者

3. 検査料の助成単価

1検体あたり**200円**(税抜)

(2)本会検査所によるPAG検査料について

基本検査料	変更	現行の検査料	対象期間
800円	→	600円	令和2年4月～令和3年3月

乳用牛繁殖改善事業の助成を利用して PAG検査を有効活用しましょう!

○重要なポイント

授精後30日前後のPAG検査結果において妊娠と診断された場合は、超音波での早期妊娠診断と同様に、一度の診断だけでは胚死滅等の妊娠喪失を発見できないので、授精後60日以降の再度妊娠診断を行うことをお勧めします。また、不妊と診断された場合、以後の発情の予定に注意し、発情兆候があれば再び人工授精を行い、発情兆候がなければ獣医師に相談しましょう。

搾乳時の人為的なミスによる抗生物質混入事故に 注意しましょう！

近年、生産者段階における抗生物質の混入による生乳の廃棄事故が後を絶ちません。

生乳の廃棄は出荷生産者の損害に止まらず、集乳ローリー単位、受入のストレージタンク単位にまで損害が及び、大きな損害賠償問題につながります。

九州地域においても抗生物質混入による事故が多発しています。

1. 平成31年度の混入事故発生状況について

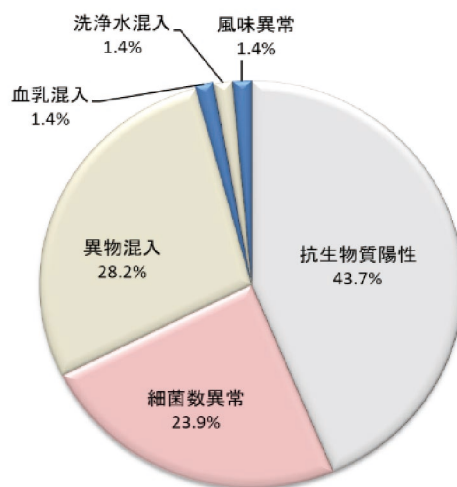
発生要因としては「治療牛を誤って搾乳した」、「治療牛を間違えた」という理由が圧倒的に多く、背景には『**搾乳者本人の確認ミス**』、家族や従業員といった『**搾乳者間の連絡ミス**』がみられます。

このように抗生物質混入事故は人為的なものが大半を占めており、ついウっかり…が多額の損失に繋がってしまいます。

=== 事故の事例 ===

- ・治療牛の誤搾乳
- ・別搾り廃棄乳の混入
- ・家族間での連携ミス
- ・残留検査前に搾乳
- ・抗生物質投与の表示ミス など

廃棄原因別内訳



2. 抗生物質混入の予防対策について

- ▶ **治療牛の識別**・・・マークバンド、舎内での隔離の実施
- ▶ **搾乳者間での連携**・・・治療牛の把握と連絡・確認の徹底
- ▶ **出荷前検査の徹底**・・・出荷前の抗菌性物質残留検査で陰性を確認してから出荷開始

目指そう！混入事故ゼロ！



酪農教育ファーム認証牧場・ファシリテーター 新規募集中！

酪農教育ファームとは、全国の酪農家および関係者が牧場や学校などで主に教育関係者と協力しながら行う酪農理解醸成活動です。

令和2年度現在、九州では酪農体験等を通して子ども達に、「食への関心を高め、酪農の仕事を理解してもらい、いのちの大切さを実感」してもらうために57名のファシリテーターと31戸の認証牧場が活動を行っています。（現在、コロナ禍のため活動自粛中）

募集についての詳細は所属組合または県連へお問い合わせください。



「牛乳ヒゲチャレンジ」と「うちトレ・スクール」を実施しました！

本年度6月の牛乳月間は、コロナ禍により、毎年実施しているイベント「ハッピーミルクフェスタ」の開催は見送ることになりました。コロナ禍による学校給食の休止や飲食店等の休業による業務用牛乳・乳製品の消費の落ち込みを踏まえ、インターネット上で「牛乳ヒゲチャレンジ」と「うちトレ・スクール」という2つの事業を企画し、テレビ・FMラジオ・新聞広告の媒体で告知しました。

1.「牛乳ヒゲチャレンジ」

コロナ禍により世の中が重苦しい雰囲気になりましたが、生活者に家庭で牛乳を楽しく飲んでもらうため、牛乳を飲んだ時に口の周りにできる白い牛乳ヒゲをInstagramに投稿してもらう「#牛乳ヒゲチャレンジ」を実施しました。5月25日～6月30日のキャンペーン期間に1,000件を超える素敵な牛乳ヒゲ写真を投稿していただきました。

○牛乳ヒゲチャレンジの投稿写真



2.「うちトレ・スクール」

コロナ禍でステイホームが長引き、運動ができない状況になりましたが、そのような中、九州にゆかりのあるアスリートが紹介する自宅でできるトレーニング動画（小学生向け）を5週間にわたってYoutubeで配信しました。出演者にはトレーニング後に牛乳を飲んでいただき、筋肉の回復に有効なゴールデンタイムや、熱中症対策、安眠効果等の牛乳の効能を紹介することで、牛乳の消費拡大に繋がりました。

○うちトレ・スクールの動画



牛乳ヒゲチャレンジ投稿写真と、うちトレ・スクールの動画は以下のURLで観ることができます。是非ご覧ください。

【九州Love Milk Club Instagramアカウント】

<https://www.instagram.com/kyusyulovemilkclub/>

【うちトレ・スクール Youtubeチャンネル】

<https://www.youtube.com/channel/UC2iMOWilljM19eGqoIT1Mlw/videos>

LL牛乳の配布にご協力いただきありがとうございました！

令和2年4月、新型コロナウイルス感染拡大防止のため発令された緊急事態宣言に伴って、全国的に学校給食の休止、事業者の営業自粛となり牛乳の消費が減少となりました。本会ではこの状況への対応策として酪農家1戸あたりにLL牛乳3ケースを配分【総数：3,762ケース】し、地域の児童クラブや医療機関などへ提供していただくことで、牛乳・乳製品の消費拡大に繋げることを目的とした事業を実施いたしました。

この事業が実施できましたのも、日頃より地域団体や消費者に対して継続的に牛乳消費拡大活動や酪農理解醸成に取り組みながら、生乳生産に取り組む酪農家の皆様のおかげだと思えます。

末筆になりますが、ご協力いただいた九州地域全1,254戸の酪農家の皆様と酪農・乳業関係団体の皆様に心より感謝申し上げます。